

瀬瀬雅代

alto sax

吉野弘志

contrabass

2023 06月17日(土)

開場 19:30 night live

開演 20:00

(2ステージ入替無)(1drink=600~)

MC=3300+2drinks order

CAFE BEULMANS

世田谷区成城6-16-5 カサローザ成城 2F

03-3484-0047

mail : info.cafebeulmans@gmail.com

メールでご予約の場合、
必ず当日ご連絡の取れる電話番号を
ご記載下さい。



瀬瀬雅代

岐阜県出身。9月19日生まれ。1歳よりピアノを弾き始め3歳から音楽教室に通う。15歳でソプラノサクソ、16歳よりアルトサクソをはじめる。高校在学中に名古屋音楽学校でクラシックサクソ、ピアノ、理論を学んだ後、Jazzに転向。2005年単身NEW YORKへ訪れたことがきっかけで音楽の道を志す。2008年9月10日、SONY MUSICより『鈴木勲 SOLITUDE Featuring 瀬瀬雅代』でデビュー。そのオリジナリティー溢れるプレイは唯一無二としようされる。2015年、KING RECORDより『鈴木勲、AVE MARIA』に参加。2019年、深川 OCT JAZZ FESTIVALで鈴木勲 OMA SOUNDで参加。2015年8月8日、自身のオリジナル曲を集めた1st ALBUM『Band of Eden』を自身のレーベル SuiSui Recordより発売。2019年12月、彩流社より自伝的著書『音の深みへ』が出版される。2020年、ドキュメンタリー映画「阿部薫がいた-Documentary of Kaoru Abe」に出演。2020年文遊社より「阿部薫 2020 一僕の前に誰もいなかった」に寄稿。2021年カンパニー社より「五〇年後のアルバートアイラー」に寄稿。2022年5月、ニューヨークのフリージャズレーベル Relative Pitch Recordより初のアルトサクソソロアルバム「FUKIYA」がリリースされる。波さ知らズオーケストラで、2015年5月、Italy Torino Festival、2016年7月、Italy Prato、Slovakia POHODA Festival、Poland Lublin Festivalに出演。2019年1月、単身 Lithuania Vilniusへ。Lithuania出身 Brooklyn 在住の Dalius Naujokaitis Naujo 率いる improvisation orchestra の [memorial Jonas Mekas] に参加。5月、Mats gustafsson 率いる リトアニアアカデミーのための improvisation lecture に参加、Lithuania improvisation orchestra に参加する。2019年、深川 OCT JAZZ FESTIVALで鈴木勲 OMA SOUNDで演奏後、BOOKSTOREで行われた中国の若手奏者 LAO DAN との 2 SAX のアフターセッションは後にカセットテープになる。秋葉原 HOT MUSIC SCHOOL サクソ科講師。

吉野弘志

1955年広島市生まれ。高校時代よりジャズベーシストを志し、1975年に東京藝術大学音楽学部器楽科(コントラバス専攻)に入学、江口朝彦氏に師事。1980年、坂田明(sax)トリオに参加、以後、富樫雅彦・加古隆・山下洋輔・板橋文夫・塩谷哲など数多くのグループに参加する。また現代音楽の分野での活動も活発で、故・武満徹プロデュースの「MUSIC TODAY」や「八ヶ岳高原音楽祭」に参加、2006年の東京オペラシティでの「SOUL TAKEMITSU」にも出演した。また2009年には間宮芳生書き下ろしの新作オペラ「ポポイ」、2011年には「間宮芳生の仕事」コンサートにも出演する。現在はベース・ソロと『彼岸の此岸』(太田恵資 violin, 鬼怒無月 guitar, 吉見征樹 tabla)の他、2022年11月から新たなリーダーグループ「NBABA trio(吉野弘志 bass, 佐藤浩一 piano, 福盛進也 drums)」を始動させた。また下北沢レディージェンでの作家の山田詠美・奥泉光との「朗読と音楽」のセッションは、毎回熱心なファンの待望するところとなっている。